



## LORENGAU URBAN LOCAL LEVEL GOVERNMENT

### OFFICE OF THE JICA VOLUNTEER: ENVIRONMENTAL EDUCATOR

P O Box 164 / 37 LORENGAU, Manus Province 641 Papua New Guinea

2018年11月5日 / パプアニューギニア・環境教育隊員 (2017-4) / 坂本晴彦

# マヌス島とロレンガウ町の紹介

## 派遣地域と業務の基本情報

マヌス島はパプアニューギニア (PNG) 最北端のアドミラルティ諸島に位置しており、その中でも一番大きな島です。エアニューギニア航空 (Air Niugini) を利用して日本からパプアニューギニアへ行く場合は、成田から約 7 時間半かかり、首都ポートモレスビーからマヌス島へは約 2 時間かかります。マヌス島全体では人口がだいたい 3 万人くらいで、常夏の島と呼ぶに相応しい赤道直下の熱帯雨林気候、四分之三が手つかずの原生林に覆われています。毎日が非常に暑く、湿気も多いため、日本の梅雨に 3-5 度ほどプラスした気候と考えてもらえればわかりやすいかもしれません。あまり知られてはいませんが、第二次世界大戦ではニューギニア戦線の要所として、戦後は大日本帝国軍人の拘留地として扱われており、日本と大きく関係を持つ島でもあります。地質は熱帯地域によくみられるラテライト (赤土) のため、トロピカルフルーツ以外の農作物の育ちはあまりよくありませんが、農地開発のためにこれまで州政府にはいくつかの JICA ボランティア隊員が派遣されてきました。現在は州政府に 2 名、地方自治体に 1 名 (私)、プライマリースクールに 1 名、合計 4 名の JICA ボランティア隊員が派遣されています。昨今の人口増加と経済のグローバル化にともなう輸入品の増加、それに付随するかたちで深刻化するセトルメント問題やごみ問題が島の景観の悪化・健康被害が起き始め、JICA ボランティア派遣の要請が始まりました。この問題は太平洋各地域共通の問題として挙げられるもので、JICA ではボランティア事業だけでなく J-PRISM と呼ばれる廃棄物処理の技術協力事業を太平洋各地域で展開しています。



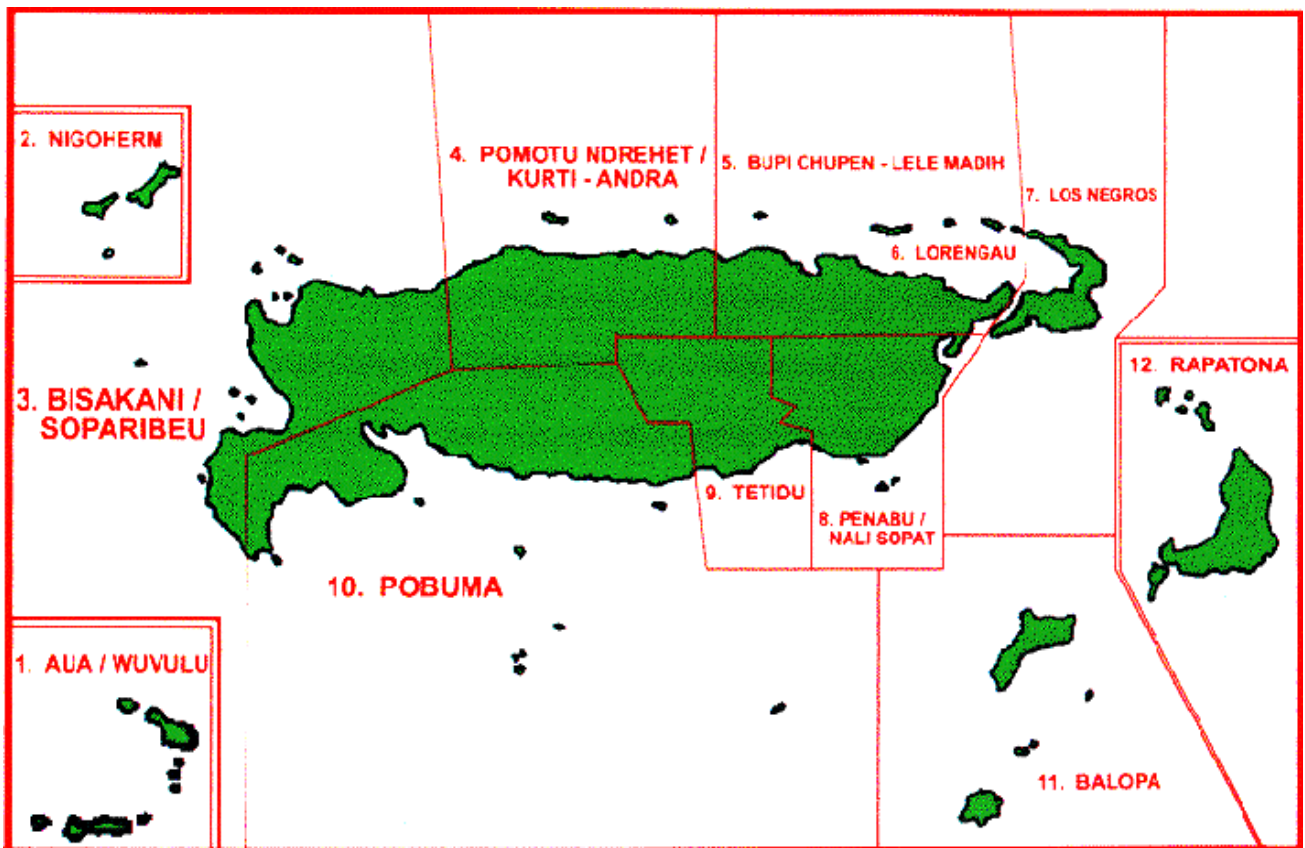
日本と PNG の位置関係



PNG 内のマヌス島の位置

## ロレンガウ町 (Lorengau Town)

マヌス島には 12 の行政区域 (町 1、村 11) が存在し、私はロレンガウ町に派遣されています。住民 8000 人程度の小さな町で、ウォード (WARD) と呼ばれる行政区域によって、町を 1 から 7 までに分割してカウントしています。宗教は基本的にキリスト教が宣教されていますが、宗派がいくつかあるので土曜日にお祈りをする人や日曜日に教会へ行く人など、さまざまです。食品の多くを輸入に頼っている状態で、ハーゲン地域 (Hagen、PNG 本島中部の山岳地帯) からは野菜作物が国内輸送されています。これらは基本的にはメインマーケットで売買されますが、地区 4 の小型のマーケットで販売されることもあります。海産物は非常に豊富で、マグロ、カツオ、貝、蟹、ロブスターから亀に至るまで多種多様な海の恵みを食することができます。なおマーケットと言えば聞こえはいいですが、要は露店です。またスーパーマーケットや薬局の経営のため、中国、フィリピン、インドネシア、インドからいくつかの会社がロレンガウに入ってきています。オーストラリアからの輸入品も多いですが、オーストラリアのスーパーマーケットが存在するわけではありません。なお、他の村に行くには PMV (Public Motor Vehicle) に乗ってハイウェイを移動するのですが、道路整備がなされていないので大きな穴がいくつもあり、とりわけ西側への移動は非常に困難です。そのため、ボートを利用して移動する人も多いです。



マヌス島の行政区域 (6 番目に位置しているのがロレンガウ町)